

進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業は、多面的な性質を持つ地域の課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合して、調整する新しいリーダー（地域戦略人材）の育成を行う取組であり、幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等を養成することを目標としている。また、本学では学部を超えた全学共通科目を開講し、前期共通教育として、1・2年次の必修としている。2年次以降は各学科の専門教育（第Ⅱ類）が中心となり、並行して、後期共通教育（第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育）科目を開講している。

具体的には、チュートリアル教育・チームティーチングを第Ⅰ類科目に導入し、学生の教育・学修支援について、教員だけでなくチューターと共にチームで実施し、人間、社会、自然をテーマとした探究科目やデータサイエンス、リーダーシップという科目を全学的に展開している。チューターについては、育成採用として、「チューター養成講座」を採用前に実施している。

学生は、探究科目により、生涯学び続けるための「学びの仕方」を学んでいる。また、データサイエンス教育において、的確な事実認識に必要となるデータを取り扱うスキルを学生が身につけ、学融合（クロスディシプリン）教育（第Ⅱ類科目）において、多様な視点からのアプローチを可能にする能力・資質を育成している。そして、アントレプレナーシップ育成教育（第Ⅲ類科目）において、学生は、実践の場で主体的に課題の解決に取組み、幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、新しいものに挑戦する力、異なる分野のネットワークを繋ぐためのコミュニケーション能力を身につける。これらにより、最終的には、Society5.0社会で活躍する人材になることを目指している。

学生は、第Ⅰ類科目における学際的学修を実施した後に、学融合ゼミナールにおいて、複数のディシプリンを、融合・統合する資質・能力を身につける。そして、第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育を履修するという学びのプロセスを推進している。また、図書館と総合学修支援機構DACの連携による正課外講座「学びのコミュニティ」を実施し、正課外の学修支援も行っている。

第Ⅰ類科目「リーダーシップ」については、課題と向かい合う上で必要なリーダーシップについて、ワークを交えながら経験的に学び、学生が自身のリーダーシップ観を知り、それを再構成する教育活動を実施した。第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」については、所属学科の専門領域を中心としつつ他領域の知識・技能の修得を意識させる教育内容としている。学生は、学融合的な学びの基本的方法を学び、幅広い学融合の知識や創造力、従来の枠組みを超えた学融合的・学際的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を牽引することを目指す等、学融合・学際的な知を養成することができた。

データサイエンスについては、産官学連携において、特に意欲の高い学生やチャレンジ精神旺盛な学生については、学びの技法の支援という形で、学生の可能性をさらに高める支援や上位層の学生の育成も意識しながら、教育活動・学修支援に取り組んだ。そして、学生の学外コンテストの参加も積極的に支援し、令和4年度は、公共政策学科2年生のチームが、「学生によるミタカ・ミライ研究アワード2022」において、上位3チームの一つに選ばれ、優秀賞を獲得した。また、公共政策学科・表現文化学科3年生のチームが、「企業分析 AWARD2022」にて優勝を果たした。学生がデータサイエンスで学んだ知識・技能を活用することに加えて、プレゼンテーション力等を育成することができた。

第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成プログラムについては、プレプログラムを継続して一部実施し、基礎科目を令和4年度に実施した。そして、令和5年度より、学生は、スキル科目や実践科目から構成される授業科目を各コースのモデルに従って履修していく。令和4年度は、各コースについての学内ガイダンスを行い、また教職員への説明会も実施した。

その他、本事業を支える教職員等に対して、FD・SD・IR・評価活動等を推進し、本事業への理解だけではなく、学生への教育活動・学修支援が効果的になるような情報提供、意見交換、評価・検証等を実施した。加えて、情報公開を推進し、本事業の意義・目的を学内外へ周知することにより、学生への教育活動の理解を促進した。